



旧見付学校だより vol. 82

平成 29 年 12 月 12 日

衣服はどこに片付けたか

最近、家を新築するときクローゼットを備え付けることが多いようで、タンスの需要が減っているそうです。では、明治時代の人たちは衣服をどうやって片付けていたのでしょうか。



旧見付学校の3階に、葛籠^{つづら}、行李^{こうり}、ブリキの衣装缶を展示しています。行李は柳や竹を編んだもので、葛籠は竹を編んだ後に渋を塗った紙を貼ったものです。ブリキの衣装缶は戦後に使われました。

タンスを使うようになったのは江戸時代だそうですが、使用していたのは裕福な家に限られたようで、庶民は葛籠や行李に衣服を保管しました。もっとも衣服もたくさん持っていませんでしたから、それで十分でした。子どもたちも緋の着物しかなく、着れなくなるまで洗濯をしながら使用しました。庶民の暮らしは江戸時代とそんなに違いはありませんでした。ちなみに昔のタンスは金具に棒を通して担いで運んだので、1竿^{さお}、2竿と数えます。

旧見付学校では、教科書等の教育資料だけでなく、昔の暮らしの道具も展示しています。ぜひ、ご来館ください。職員一同お待ちしております。

〒438-0086 磐田市見付 2452

磐田市旧見付学校 TEL & FAX 0538-32-4511

(休館日：月曜、祝日の翌日、年末年始)

12月の休館日：12/18、25、26、29～31

1月の休館日：1/1～3、9、15、22、29